

山元議委発第73号  
令和5年9月20日

山元町議会議長 岩佐哲也 殿

産建教育常任委員会  
委員長 遠藤龍之

### 優良市町村視察研修報告書

本委員会は、優良市町村視察研修を行ったので、その結果を下記のとおり報告します。

#### 記

- 1 研修月日 令和5年8月2日(水)～4日(金)
- 2 研修地と研修項目
  - (1) 長野県上高井郡小布施町 新規就農支援事業の取り組み状況について
  - (2) 長野県伊那市 新規就農支援事業について

#### 3 研修地の概要とまとめ

##### (1) 長野県上高井郡小布施町

人口10,988人、総面積は19.12km<sup>2</sup>、長野県の北東に位置する町。  
長野県内で最も面積の小さい自治体である。葛飾北斎をはじめとする歴史的遺産を活かした町づくりを行っており、今や北信濃地域有数の観光地として認知度も高くなっている。

主な産業は農業であり、特に果樹（ぶどう、りんご、栗等）が農業産出額の大多数を占めている。

##### ○新規就農支援事業の取り組み状況について

新規就農者の誘致として、年1回、長野県内市町村・JAとの合同で就農相談会を首都圏で開催しており、近年はオンラインでの就農相談会も実施している。町でも随時就農体験を開催し、長野県の事業である新規就農者のための里親研修へと繋げている。

新規就農者への町独自支援としては、共同利用倉庫の貸出や住宅の貸与を実施している。この他、国の準備型・開始型の資金を受給していることが前提ではあるが、里親研修中の者に対して、就農準備資金を受けるまでの資金を交付する就農準備資金交付サポート事業、住居費助成事業、農地賃借料助成事業等の補助事業も行っている。この結果、令和5年度までに29名が新規就農している。

ただし、新規就農者の大半が独立後の栽培作物としてぶどうを選択するが、1年目から収益を確保できる圃場がないことや、りんごの担い手不足、及び農家の高齢化により、農地の荒廃化が課題となっている。

## まとめ

担い手不足や離農者などの課題はあるものの、県の施策との連携強化がうまく図られ、町独自の支援策の拡充に努めている。特に県が実施している里親研修制度との連携は、担い手不足の農家とのマッチングに大きく貢献している。

我が町でも、現在の新規就農者への取り組み及び課題を整理し、改善策を打ち出して行くべきである。

## (2) 長野県伊那市

人口65,647人、面積は667.98km<sup>2</sup>、平成18年3月に伊那市・高遠町・長谷村が合併して誕生。東に南アルプス、西に中央アルプスという二つのアルプスに抱かれ、その間を流れる天竜川や三峰川沿いには平地が広がり河岸段丘もみられる。

市内を南北にはしる中央自動車道や国道153号などの幹線道路が整備され、東京・名古屋のほぼ中間に位置していることから、商工業にとって優良な立地条件である。

主な産業としても、肥沃な土地と豊かで良質な三峰川水系の水をいかした米作りのほか、野菜、果樹、花卉などの農業が盛んである。

### ○新規就農支援事業について

新規就農者への取り組みとして、平成5年11月に農家を発展させる組織として、農家、市役所、JA、農業改良センター等により「伊那市農業振興センター」が設立された。ここでは毎月幹事会を開催し、各機関における支援事業等の実施状況や検討を行っている。

また、移住定住支援と連携した、「コンパクト農ライフ塾 INASTA」の開催やオンラインによる農業講習を実施している。

## まとめ

離農や農地を手放す人がいる一方、農業生産に意欲的な兼業農家が増えてきている実態がある。農業振興センターが設立されたことにより、農業に関わる機関の連携が充実しており、スムーズな新規就農者の受け皿ができています。また、JA独自の制度も充実しており、こちらを活用した新規就農も進んでいる。

我が町も、積極的に農業振興のための組織体制を構築し、持続可能な農業を展開すべきである。